原 著

透析患者の全人的看護のための看護方法についての研究

服部 むつ子 大野 安代 上 杉 命 牧野 ひふみ
井上 礼子 野村 直美 中原 富美夫 西垣 恵子
池田 康修*
岐阜市民病院透析室 同精神科*

key words : 全人的看護, Fish bone, Sequence of events, エゴグラム, Cobweb

〈要旨〉

慢性透析患者の看護においては健康障害のみではなく社会的、心理的問題など患者を全人的に捉え援助することが求められている。

今回我々は患者のもつ多くの情報を系統的に整理・分析する方法について検討を加えた。対象は導入期から透析歴14年におよぶ患者10名で男性6名、女性4名、平均年齢 55.9 ± 9.8 歳、平均透析歴5.1年であり、基礎疾患は慢性腎炎9名、糖尿病性腎症1名である。

方法は情報の分析過程として患者の縦断的理解のためのFish bone型分析、横断的理解のためのSequence of events (Hurst) にエゴグラム (TEG) を加え分析し、内面的理解のためのCobweb型分析を行った。これらのすべての方法についてケースカンファレンスでさらに分析を深め、Cobwebの内枠の心理に視点をあて看護援助を行った。

看護評価方法として患者の悲嘆レベル(デューク大学病院看護部の悲嘆レベルの行動査定)を用いた。

患者の心理状態を捉え援助した結果、悲嘆レベルにおいてショック・抑うつレベルは減少しスムーズに受容段階へ進むことができた。また、患者の問題行動・不安の改善がみられ維持透析を円滑に行うことができるようになった。

今回の一連の方法での分析は看護婦が患者を全人的に捉えるのに効果的であり、カンファレンスを重ねることで看護援助の統一を図ることができた。そして障害をもっている患者に対し、看護婦は「やさしい気持ち」を見出し援助することができた。その結果患者は障害をもった自分を見つめることができ、それを受容し新たな透析ライフを見出すようになった。

Study of nursing method for hemodialysis patients after due consideration of their whole personalities

Mutsuko Hattori, Yasuyo Ohno, Nanori Uesugi, Hihumi Makino, Reiko Inoue, Naomi Nomura, Fumio Nakahara, Keiko Nishigaki, Yasunobu Ikeda*

Dialysis Unit and Psychiatry*, Gifu City Hospital

Nursing care to aid social and mental problems, after due consideration of the patients' whole personalities, is necessary in patients with chronic hemodialysis. In this study, we arranged and analyzed systematically various information about patients. The subjects were ten patients undergoing chronic maintenance hemodialysis for about five years (from one month to fourteen years). Six patients were male and four were female. The average age was 55.9 ± 9.8 years. The underlying diseases were chronic glomerulonephritis ($n=9$) and diabetes mellitus ($n=1$).

As analysis methods for information, we used the "Fish-bone" type analysis, "Sequence of events" (Hurst), egogram (TEG), and the "Cobweb" type of analysis. We discussed these methods in case conferences and performed mental nursing care according to the "Cobweb" type analysis.

As the nursing evaluation method, we applied "grief level" assessment of patients by Duke University Hospital. Therefore, we were better able to understand the mental states of patients and performed nursing care easily. After

that, shock and depression of the grief level in patients decreased significantly, and patients were able to progress smoothly to the next step of acceptance and settle their problems or anxieties. United action in nursing care could be performed by repetition of conferences, and nurses could take care of patients with gentleness and understanding. Consequently, it seems that patients could better understand their physical and mental states and accept their new hemodialysis lives.

はじめに

透析療法は約 20 年の間に飛躍的な進歩を遂げ、透析患者の長期生存・社会復帰は可能となった。

一方、慢性透析患者の看護においては身体面のみではなく、社会との関わりも含め患者自身が抱えるさまざまな精神的苦悩への配慮など、患者を全人的に捉え援助することが求められている¹⁻³⁾。

しかし、どのように患者を捉えいかにアプローチするかという方法論については数多く見られるが、個々の透析患者の心理的問題が非常に複雑であるため、実際にはなかなか難しい問題となっている^{4,5)}。

今回、私たちは北島ら⁶⁾が報告している Fish bone 型に表現された発達過程を踏まえ、Hurst⁷⁾の提唱した Sequence of events にエゴグラムを加え情報を分析し、Cobweb 型の精神的接近法を応用し、患者の心理におよぼす影響を分析し、看護援助を試みたので報告する。

対象

対象は表にまとめたが、慢性腎不全患者 10 名(男性 6 名、女性 4 名)で基礎疾患は慢性腎炎 9 名、糖尿病性腎症 1 名である。平均年齢は 55.9±9.8 歳、平均透析歴は 5.1 年である。

これらの患者に対し以下の 5 つの方法で情報を分析し看護援助を行い評価した。

方法

1. Fish bone 型分析⁶⁾(縦断的理解) 患者を縦断的理解するために左側に生活歴、右側に病歴を経時的にみた

もので、その形態より Fish bone 型(魚の骨型)とよぶ。これは患者の生活史を理解し、疾病がその発達課題⁸⁾におよぼす影響を把握するための図式化である。

2. TEG (東大式エゴグラム)⁹⁻¹¹⁾

これは交流分析理論に基づき 5 つの自我状態への心理的エネルギーのわりふりを視覚的につかもうとするための質問紙法心理テストである。

3. Sequence of events (横断的理解) はアメリカに POS を普及させた Hurst⁷⁾が提唱したものである。この方法は極めて慎重にデータベースを処理し解釈するため、問題相互の関係を矢印と線で結んだ模式図であり、問題の相互関係を解明してゆく思考過程を刺激する優れた方法と思われる。これを看護に応用し、透析患者の情報を病像・生活像・社会像に枠組みし、それに患者のエゴグラムを加え分析し模式図を作成した。

4. Cobweb 型分析 (内面的理解)⁶⁾

これは患者の内面的理解をするために、Sequence of events で捉えた健康障害を外枠に、生活社会背景問題を中枠に、それに Fish bone、エゴグラムより導かれた患者の心理(発達危機、状況危機)¹²⁾を内枠に図式化するもので、Cobweb 型(蜘蛛の巣型)と呼ばれるものである。

5. これらのすべての方法についてケースカンファレンスで分析を深め、Cobweb の内枠の心理に視点を当て看護援助を試みた。

その看護評価方法として「デューク大学病院看護部の悲嘆レベルの行動査定¹³⁾」を用いて検討した。

結果

代表的 1 症例の分析過程(症例 No. 2)

氏、52 歳、男性、病名は慢性腎炎で、透析歴 3 か月、性格は短気、真面目である。家族構成は妻、息子との 3 人暮らしである。

図 1 に 氏の Fish bone 型を示す。5 人兄弟の次男であり、家長という責任がない反面、この時代自力で道を開かねばという強さを持ち合わせている。

青年期は他の多くの青年にみられるように自由にふるまっていたが、交通事故をきっかけに自分の限界に気付く、この時点で青年期の危機を乗り越えているものと思われる。

壮年期は家庭生活および社会生活において責任ある役割を果たしながら少しずつ身体的衰えを認めていく時期

表 対象

No	性別	基礎疾患	年齢	透 析 歴
1	男	糖尿病性腎症	56	4 年
2	男	慢性腎炎	52	3 か月
3	男	慢性腎炎	51	1 か月
4	男	慢性腎炎	42	10 年 7 か月
5	男	慢性腎炎	58	1 か月
6	男	慢性腎炎	74	9 か月
7	女	慢性腎炎	71	10 か月
8	女	慢性腎炎	47	14 年
9	女	慢性腎炎	54	12 年
10	女	慢性腎炎	54	8 年

図1 氏の Fishbone 型

図2 氏の Sequence of events

図3 氏の Cobweb 型

であるが、36歳で部長に就任後、41歳からの激しく変化していく病気、さらに52歳からの透析導入により、家族や後輩への配慮など他者へ与える課題を乗り越えられないでいる壮年期の危機状況にあると考えられる。

図2は 氏の情報相互の関連図 (Sequence of events) である。右上に病像を示しており、慢性腎不全にて週2回3時間透析を行っている。閉塞性動脈硬化症があり下肢痛のため血管拡張術が施行されている。冠動脈造影の結果3枝病変があり、左冠動脈の前下行枝は完全に閉塞しており、再梗塞や心不全による急死の危険も大きいと思われる。PTCAは難しく現在薬物運動療法が行われている。図2の左側は生活背景を示し、透析導入後役職辞退や妻のパート勤めなどの生活の変化を来している。患者のショックを考え主治医は職場復帰の可能性もあると本人や会社に説明しており、患者は胸痛をきたすぎりぎりの活動で自分を試すことがある。外泊時の妻の几帳面な食事管理は、「透析食が嫌い」な患者との夫婦喧嘩の原因となっている。右下のエゴグラムに関連するものを矢印で示しており、その自我状態は自己肯定他者

否定の構えを示している。他人には批判的であるが自分を積極的に活かそうとする Critical Parent (CP) や Free Child (FC)の機能が表面に出るのが特徴である。また高い Adult の機能は計画性を持ち相手を理解する力を示していると思われる。一方食事、透析生活への不満が強く、対処困難による葛藤から Nurturing Parent (NP) が低く出ていると考えられる。

図3はこれまでの分析から 氏の健康障害と生活社会背景、心理を捉え図式化した Cobweb 型である。HK 氏の健康障害として外枠に「慢性腎不全」「狭心症」「閉塞性動脈硬化症」などの疾患とそれに伴った「不眠」「食事のストレス」、中枠に生活社会背景として「週2回3時間透析」「入院による休職」「妻の食事管理」などの問題、内枠に心理として「病気に対する否認・抑うつ」「父親・夫としての役割」壮年期の危機として「自己の人生への危機」が捉えられた。

図4は Cobweb で捉えた心理に視点を当て援助した内容を示している。透析への安全保障を基本に1. 病気への否認・抑うつの言動として「透析に伴う苦痛」「食事

図4 看護援助

の不満」などは、強い Adapted Child (AC)・FC の機能から表出されたものと考えられるがこれに対しては、批判評価を加えず、ベッドサイドで傾聴し感情表出を助けるようにした。2. 自己の人生への危機の言動として、高い CP の機能から表出される「妻の被扶養者になる」「身体作りを考える」などには目標をさらにあげないよういたずらな励ましの言葉を止め、患者の質問に答え現実に直面していけるよう見守った。3. 父親、夫の役割の言動として Adult の裏に隠された NP の機能から表出される「自分のことを整理する」「社会労務士の勉強」などには患者の言葉の中にある家族へのやさしさに理解を示し、役割を果たしていけるようサポートした。

以上のアプローチを判定するために、デューク大学病院看護部の悲嘆レベルの行動査定を用いて 氏について調べたものを図5に示す。援助前は、取り引き・抑うつが各々50%を占め、看護援助後は取り引きは消え、抑うつ42%、受容67%に改善していた。子供たちは患者を「穏やかでやさしくなっている」と話しており患者は看護婦に「いろんな悩みを話した。正解はなかったが自分の心に思ったことがいえ、そして自分で反省し考えがだんだんまとまってきた」と述べている。

図6は対象とした維持透析患者10例について生活歴と病歴、エゴグラム、全体像から症例2と同様に心理分析を行い看護援助を行った結果について検討した結果である。10例の平均で示したが、全体的にショックから抑うつまでのレベルは減少し、受容段階へ進んでいることが理解できる。

考察

透析技術の進歩により慢性腎不全患者の維持透析は技術的には非常に進歩し、患者の延命は可能になった。

しかし透析治療は一生続けなければならない患者の精神的負担ははかりしれないものがあると思われる。一方、患者の高年齢化や狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患、糖尿病性腎症からの失明などの合併症の問題など透析以

図5 氏の悲嘆レベル

図6 悲嘆レベルの変化 (10例の平均)

外の障害により制約された生活を送っている患者も増加する傾向にある。したがって日々のベッドサイドケアにあたる看護婦はこれらの患者のそれぞれの健康障害はもちろんのこと、それによって生じている社会・家庭状況の変化や心理的問題などへのトータルなケアが要求される。これらの看護問題に対しては看護の対象であるその人をイメージしやすいように、過去から現在に至る生活を把握し、健康障害によって生活上に支障を来しているのは何かを知ることが大切である。つまり「その人らしい生活がわかること」と「その人の健康的な生活と比較して現在の生活ではどれぐらいのズレが生じているかが判別できる」ように患者の持っているバラバラな情報をまとめることが必要であるといわれている¹⁴⁾。

今回、私たちが患者を全人的に捉えるために用いた Fish bone 型の分析・Sequence of events は成人各期の発達過程がどんな経過・段階を経てきたかが捉えられる。また現状ではどのような発達課題にありそれは達成可能であるか、達成に障害をおよぼす因子は何であるかなどを患者の病態レベル、生活社会背景の問題から分析を

加えることで、個々の人間を発達段階と障害レベルから捉えることができた。

一方、患者の心理的側面からの分析は面接法・行動観察法・心理テスト法など以前より数多く報告されている^{15,16)}。内面的理解の方法として用いた心理テストとしてのエゴグラム (TEG) は、患者の現在の心理状態を客観的に裏付けることができた。Cobweb の作成では患者の健康障害と生活社会状況・心理状態が表され、患者の抱えている問題点が明らかとなり、常に患者を一人の人間として見つめることができ、健康障害のみに片寄らない看護が提供できたと考えられる。その結果、患者は自己の内面に目を向け、障害を持ちながらも自己のおかれた状況を受容し、新たな自分の生き方を見つめて行くことにつながったものと思われる。

しかし、これらの分析はなかなか難しくなかでもエゴグラムの分析については、ある時点でのある状況下での自我状態であり、種々の因子によって影響を受けており、これを客観的に評価することは評価する側の主観的な要素も混入し必ずしも容易ではない。

TEG では客観的評価の指標として、交流分析理論に基づき TA (transactional analysis) チェックテーブル¹¹⁾を作成し効果をあげている。透析患者の心理状態をより客観的に把握するため今後この方法も検討して行きたい。

また、Fish bone 型分析での生活歴については看護婦の患者への関わりの程度や、患者自身が触れられたい部分があり、情報量の変化をまねき分析を困難にしたり誤ったものになることも考えられる。また、十分な情報が得られたとしても、その患者の生活の時代背景やその発達段階での患者の気持ちを正確に分析することはなかなか難しいことと思われる。

春木¹⁷⁾は否認・抑うつ等の透析患者が抱える心理的問題には主治医やスタッフが手におえなくなってから精神科コンサルテーションを勧めるケースが多く、菊池¹⁸⁾は包括的透析医療を実践するためのより有効な治療システムが確立されるよう努力する必要があると述べている。

今回の分析過程においてスタッフ、透析医全体でケースカンファレンスを行い、さらに精神科医の指導を受けたことが分析方法の多くの困難な点を解決できたと考える。この方法を一つの看護システムとして機能させることが菊池がいう包括的透析医療に近づく一方法と考える。いつも患者のベッドサイドで看護するナースは、これらの分析方法を使ってどれだけ患者の気持ちに近づくことができるかが重要なことであり、病態・心理状態を正しくつかむための豊富な知識と臨床経験との積み重ねが必要と思われる。

結論

10 名の慢性透析患者に全人的看護を行うため生活歴、生活社会背景、心理面から分析検討して次の結論を得た。

1. 透析導入に至るまでは多くの出来事に会いながらもそれぞれの発達課題は達成できていた。透析という大きな障害によって患者の家庭・社会生活での役割交代や多くの喪失体験、日常生活行動の変更という状況が余儀なくされ、心理的な危機状況をもたらしていることが伺えた。

2. この一連の分析方法により看護婦は障害をもっている患者に対し「やさしい気持ち」を見出し援助することができた。また、ケースカンファレンスを行うことで看護援助の統一が図れた。

3. その結果、患者は自己の置かれた状況を受容し新たな自分の生き方を見つめられるようになり、維持透析を安定して行うことができるようになったと思われる。

本論文の要旨は第 35 回日本透析療法学会総会にて報告した。

文献

- 1) 佐藤喜一郎：入院生活の精神保健。精神保健（早坂泰次郎，長谷川浩，柏木哲夫編），p 168-194, 医学書院，東京，1990
- 2) Ninomiya AH：腎不全患者の QOL。阪透析会誌 7：1-6，1989
- 3) 朝倉隆司：透析患者のクオリティ・オブライフの測定に向けて。臨床透析 4：441-452，1988
- 4) 高木治美，関原直子，吉田清美，音頭礼子，坂井輝子：高齢透析患者の心理的看護。透析会誌 21：809-815，1988
- 5) 逢沢詳子：家族の問題が患者の透析生活および社会生活への適応を阻害した事例。臨床透析 4：295-299，1988
- 6) 北島謙吾，山本浩治，谷口紀子，八田勘司：精神科看護過程における情報の分類・分析方法に関する検討。看護展望 14：1162-1168，1989
- 7) Hurst JW, Walker HK：Weed システムを実行する方法。POS の原点と応用（日野原重明，林 博史編），p 59-68, 医学書院，東京，1987
- 8) 飯田澄美子，稲岡文昭，岩井郁子，小島操子，佐藤禮子，鈴木和子，林 滋子，平山朝子，南 裕子：成人各期の発達段階と課題。成人看護学総論（金子光，小林富美栄編），p 15-59, 医学書院，東京，1988
- 9) 桂 戴作，杉田峰康，白井幸子：自我状態と構造分析。交流分析入門，p 7-47，チーム医療，東京，1988

- 10) 杉田峰康：自我状態エゴグラムと OK グラム。臨床交流分析入門，p 1-78, 医歯薬出版，東京，1990
- 11) 末松弘行，和田迪子：TEG パターン分類による活用。エゴグラムパターン，p 33-150, 金子書房，東京，1989
- 12) 小島操子：喪失と悲嘆。看護学雑誌 10：1106-1113，1986
- 13) Duke University Hospital Nursing Services：正常状態にない場合の基礎ケアガイドラインー悲嘆ー（前田マスヨ編），p 80-86, 学習研究社，東京，1988
- 14) 金井和子：看護情報アセスメント。看護過程マニュアル（金井和子，河合千恵子，大川原千鶴子編），p 44-63, 学習研究社，東京，1988
- 15) 藤井道子：透析医療における心理テストの活用。臨床透析 1：1069-1077，1985
- 16) 吉田長生，吉田竹郎，高田 宏，桂 戴作：交流分析的技法の導入により体重良好状態に近付きえた透析患者の一例。臨床透析 3：1817-1822，1987
- 17) 春木繁一：透析患者の最近の精神医学的特徴。透析 XIX（小高通夫編），p 149-155, 日本透析療法学会，東京，1989
- 18) 菊池孝則：透析施設における consultation-liaison service. 臨床透析 1：1061-1067，1985